



住宅の耐震化は我が身を守る最初の備え



まもる たすける

防災

の心得

昔から香川県は災害が少ないといわれていますが、度重なる地震や豪雨に他人事ではなくなりました。県では南海トラフ巨大地震の被害想定を公表し、三豊市では震度7、最高津波水位3.3mと想定され、甚大な被害が予想されます。あなたの身を守り、隣人を守るために、日頃の備えについて、改めて考えてみましょう。



県下でも珍しい高瀬高校と高瀬中央保育所の初合同避難訓練(7月9日)



表紙

今月の市民力

24年4月1日に結成した辻地区自主防災会。辻校区約620の全世帯が参加しています。校区で自主防災会を作っているのは、現在、山本町では辻だけです。来年には、地震を想定して初めて「辻地区ふれあい防災訓練」を行う予定です。「辻地区は川や山が近くになので危険意識が少ないんです。普段から防災意識を持ってもらえるように、啓発していくことが私たちの役目です」と役員の皆さんは声をそろえて言ってくれました。



三豊市の人口 ※平成25年8月1日現在 ()内は前月比
世帯数 23,149 世帯(+28) 総人口 66,882 人(-17) 男 31,889 人(+5) 女 34,993 人(-22) ※香川県人口移動調査による

~市ホームページには情報が満載~
Mのみちるべ
http://www.city.mitoyo.lg.jp/ 三豊市 検索



http://www.city.mitoyo.lg.jp/



「暮らしの情報」タグ→「防災・消防・救急・安全」をクリック!

できていますか? 防災準備!
今、地震が来たら...。あなたはどんな行動をとりますか? 避難するときには何を持ち出しますか? いざという時のために日頃から、「心やグッズの備えが大切」と分かってはいても、なかなか実際は準備ができていない人も多いいかもしれません。そんな人はこの機会に市ホームページの「地震発生! そのときどうする」や「非常持出品・備蓄品の準備」をクリック。災害時に気を付けることを確認するとともに、持出品チェックリストを活用し、持出品・備蓄品をそろえておきましょう。思い立ったらすぐ準備! 今が大切です!

自分を守れ

(自助)

7日分の備蓄で
7日間頑張る

南海トラフのように広範囲に及ぶ災害が起きた時は、三豊市に救援は来るでしょうか。大都市や被害の大きな場所が優先されると考えられるほか、交通網の寸断によって、救援に來られない可能性もあります。

これまでは各家庭で3日分の備蓄をお願いしてましたが、最近は最低7日間生活できるだけの、必需品の備蓄が必要とされています。

また、枕元にはスリッパ(靴)・懐中電灯・笛・眼鏡を置いておきましょう。

一にも二にも
家族で話し合い

日頃から家族で役割分担やバラバラになった時の集場所などを話し合い、右の表に書いてみてください。

訓練でつとさに動ける

日頃から訓練をしておかないと、人間はつとさに動けません。

小さな揺れでも、訓練だと思って、各自でその後の動きをしてみてください。転倒する物や落下する物がなく、閉じ込められない場所へ避難しましょう。

家具などの
下敷きにはなるな

家具の転倒防止はとても大切です。大きな家具でも簡単に倒れます。下敷きになると死にいたる場合があります。また、テレビや電子レンジなどは

避難の時は電源を
落として

二次被害で恐ろしいのは火災です。今、停電で電気が切れていたとしても、通電した時、漏電すると火災になります。避難するときには必ずブレーカーを落としましょう。



仁尾小学校では親子で家具の転倒防止に取り組んでいます

あなたの避難場所は

家族が落ち合う場所は

安否確認は

自力が近隣の助け

隣人を救え

(共助)

地域の中心で
指導力発揮

阪神・淡路大震災では、地震発生直後の生き埋めになった人や閉じ込められた人を助けたのは近所の人60%、自力が35%と、隣所の人の方が大きいことが分かります。消防などの救助隊に助けられた人の割合はわずか1・7%でした。

ていて、訓練や器具点検に参加しているんです。頼もしいです」と新街連合会の特徴を話してくれました。

「まずはみんなの名前を覚えることから始まり、昨年は地域の地形を知ろうと、台風で被害が出た場所の写真を持って、平常時の様子を見に行きました。その調査結果を一時避難場所について見ると、地域で地域を守るヒントを教えてくださいました。

昔からここに住んでいる人、新しく住み始めた人など、声を掛けあって取り組んでいるそうです。



(上) 孤立した人をボートで救出
(左) 倒壊家屋で下敷きになった人を救出しタンカで運びます
(みの防災フェスタ 2012 より)

災害時要援護者登録制度をご利用ください

災害時に避難の支援が必要な人(要介護認定者・心身障がい者・1人暮らしの高齢者・避難の際に地域の人の支援が必要な人)は、災害時要援護者登録制度をご利用ください。

登録を希望する人は地域支援者を自分で見つけて、登録申請書を提出してください。

地域支援者とは

災害時要援護者を普段から見守り、災害時には必要な情報を伝えたり、一緒に避難することを心がけていただく人です。決して責任を伴うものではありません。

▶問い合わせ 福祉課 ☎ 73-3015

自主防災力を強化するため補助金制度で大切な訓練を



24年度炊き出し器材を購入した比地大地区自主防災会

地域防災訓練支援事業

実践的な防災訓練を小学校区単位で実施する自主防災組織に、最大50万円の資機材等購入費を補助します(1回限り)。

▶問い合わせ 総務課 ☎ 73-3000

個人住宅の耐震化を急げ!

▶問い合わせ 建築課 ☎ 73-3044

すぐに耐震診断を行いましょう

9万円を限度に補助します
《耐震診断に要した費用×9/10》

大地震に対して住宅が倒壊しないかどうか、所定の講習を受けた建築士が判定してくれます。昭和56年5月以前に建てた住宅には、耐震補強が必要な住宅が多くあります。どこを補強すればいいのか、費用はいくらかかるかなど、改修に向けた計画が立てられます。



基礎のひび割れ等がないか打診

早めに耐震改修に取り組みましょう

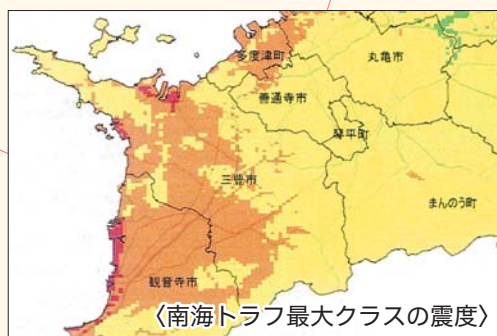
90万円を限度に補助します
《耐震改修に要した費用×1/2》

大地震による揺れに耐え、住宅が倒壊しないように必要な補強等を行うものです。木造住宅では壁に筋交いを入れたり、頑丈な合板を貼り付けることが一般的です。ほかに基礎の補強や屋根の軽量化を図ることもあります。県内に主たる営業所を有する工務店などであれば、誰に依頼してもかまいません。



補強の一例
(筋交いを入れたところ)

地震・津波被害想定公表や特別警報の発表



■震度7 ■震度6強 ■震度6弱 ■震度5強

	最大クラス (1000年に1度かもっと低い頻度で発生するが、発生すれば甚大な被害をもたらすもの)	発生頻度の高いもの (数十年から百数十年に1度程度発生し、規模は小さいが大きな被害をもたらすもの)
最大震度	震度7	震度5強
最高津波水位	3.3m	2.6m
	(最高津波水位とは満潮時等の水位+津波の高さ)	
浸水面積	820ha	458ha
	(浸水面積は河川部を除いた浸水の深さ1cm以上)	



市内で震度7と公表されたのは、詫間町の一部と仁尾町の一部です。また最高津波水位3・3mは仁尾港で、浸水域が最も広いのは、高瀬川沿の河口付近です。

市内を見てみると

3月31日、香川県は地震・津波被害想定を公表しました。三豊市に関する想定は上表のとおりです(詳細は県ホームページでご確認ください)

三豊市震度7と公表

気象台は、8月30日から「特別警報」の発表を始めました。これは大雨や津波・高潮など今まで経験したことのないような異常な現象が起きそうな時に発表されます。直ちに自分の命を守るような行動をとりましょう。

直ちに命を守る行動に

公表を見て、いたずらに怖がる必要はありませんが、日頃から心に留めておきましょう。

見直しと整備を着実に

見直しと人材育成に力を入れて

香川県が地震・津波被害想定を公表したことに伴い、三豊市では平成18年度に策定した地域防災計画の大幅な見直し作業を平成24年度から行っています。また、防災行政無線の整備をしたり、災害時のメール配信をするなど、皆さんへのお知らせ方法を各種導入してきました。今後は防災拠点となる危機管理センターの建設をしていきます。

避難に必要な情報を充実

避難に関するものでは、平成25・26年をめぐに、総合防災マップの修正や津波ハザードマップの作成、避難所の見直し、防災標識の見直し・設置、燃料や食料などの分野での防災協定を

地域力の強化に向けて、三豊市では新しく2つの事業を行っていきます。一つは地域の防災力を最も期待できる各地域の自主防災組織への補助制度です。二つ目は地域防災の中核を担う防災士の育成を行います(詳しくは5・6ページの関連記事参照)。日頃からの備えで、いざという時の心構えをしていきましょう。

普段から地域力をつけて

予定しています。すでに、国や県・友好都市等(美波町・三好市・洞爺湖町)と相互応援協定を結んだほか、市建設業協会や市上下水道工業業協同組合、県LPガス協会三豊支部など、民間企業とも応援協定などを結んでいます。

あなたも地域防災を担うリーダー『防災士』に

防災士ってどんな人

災害による被害をできるだけ少なくしたり、防災力の向上のために活躍が期待される人で、十分な意識や知識・技能を有する人として、NPO法人日本防災士機構が認定した人たちです。

期待される防災士の活躍

最も重要な役割は、日頃から巨大地震に備え、家屋の耐震補強の啓発や防災知識の普及、避難訓練の企画・実施など、地域で想定される災害をイメージし、さまざまな防災活動を行うことが防災士の役割として期待されています。現在、市内では約20人の防災士が活躍しています。

市独自の講座開催は県下でも初めて

▼申し込み・問い合わせ 総務課 ☎73・3000

地域防災を担う人材を育成するため、防災士養成講座が市内で開催されます。

市内の防災士を27年度までに約100人に増やしたいと考えています。

研修内容は地震・津波・風水害・土砂災害などの自然災害に関する知識のほか、行政の役割や限界、災害医療、災害報道、身近でできる防災対策など、防災について幅広く学習します。また『避難所の開設と運営』など実践的なグループワークも行う予定です(カリキュラムは現在、調整中で、グループワークは、1つまたは2つの予定です)。

2日目には、防災士資格の取得試験も行われます。資格を取得した後は、地域の防災士として自主防災組織の訓練指導や防災活動

での活躍をお願いします。

※講座は同機構の認証機関、防災士研修センターの協力を得て開催します

今こそ受講 防災士養成講座

日時

【防災士養成講座】
平成26年2月8日(土)・9日(日)の2日間
午前9時～午後6時30分

【普通救命講習】

(未受講の人は必須)
平成26年2月2日(日)
午後2時～5時

場所

市民交流センター
対象
・20歳以上で防災士として活動希望する人
・市内に在住または市内に勤務する人



防災士 松野正憲さん (高瀬町)

地域をよく知っている人だからこそしっかり守れる

消防団員の松野さんは北消防署に行った時に、募集記事を目にし、平成24年2月に大阪で受講。全国で10,053人目の防災士となりました。

「災害になる前にいかに災害を食い止めるかが防災士の役割りだと思っています。地域の特徴を知っている人たちが地域をよく調べて、3、4程度の自治会でハザードマップを作り、どこが安全かなど、日頃から地域の高齢者などに伝えることは必要です。また机上の訓練であっても、危険場所の確認などをしておくと、いざという時に力を発揮します。防災士は男性ばかりではいけません。女性や大学生等、それぞれの役割があります。この機会に多くの人に防災士になってもらって、一緒に活動ができればと思います」と強い思いを語ってくれました。

申し込み方法

申込書に記入のうえ、参加料とともに総務課へ提出してください。

※申込書は総務課および各支所にあります。また市ホームページからもダウンロードできます

申し込み期間

9月9日(月)～10月31日(木)
(開庁時間内をお願いします)

・全日程に必ず出席できる人(1日でも休むと資格が取得できません)
定員 50人
※応募者多数の場合は先着順とします

参加料

10,000円
(教材費、防災士資格取得試験料および認証登録料)
※防災士養成講座受講料51,000円は市が負担(普通救命講習は無料)